

新健康協会では、新しい健康法を伝える「健康新聞」を毎月発行し、人間のもつ治癒力や適応力をお伝えしています。肉体的、精神的なコトでお悩みの方も是非一読されてみてください。

# 健康新聞

発行所 新健康協会  
発行人

〒813-0001  
福岡市東区唐原6-7-1  
TEL:092-661-1531  
https://shinkenko.jp



次の御論文は、明主様(当協会の教祖)が、昭和二十五年に発表されたものであります。世界平和と心身共に健全な人間作りを目指す活動に御理解を頂ければ幸甚です。

## 恐怖を除く

我々の目標とするところは、常に言うごとく人類救済にあるのである。としたら、人類救済という事は一言にして言えば、人類社会から一切の恐怖を除く事である。勿論その最大なる恐怖としては、病氣であり、貧困であり、闘争である。

右の三大恐怖のうち、その主座を占めているものは何といつても病氣である。病氣の恐怖ほど常に人間を脅かすものはない。何人といえども、一生を通じてこの不安から全く免れるものは、一人もないといつてもよからう。次に第二の恐怖としては貧乏であるが、その原因の大方は病氣からであるのは勿論で、この病氣の恐怖こそはいかに文化が進歩しても減らないのみか、むしろ増しつとあるとさえみられる事実である。ところで、今日病の原因はほとんど細菌としていいるから、細菌の

恐怖に至つては昔人にはみられないほどである。それがため健康診断、各種の予防注射、レントゲン写真等あらゆる手段を講じつつあり、それがため保健所や療養所、官私病院や国立療養所、町医等々病患を防止するためのあらゆる施設は至れり尽くせりといつてもいい程で、これらに要する莫大な費用と労力は計算の出来ない程で、民衆の負担も蓋し容易ならぬものがある。

次に貧困の恐怖であるが、この原因の最大なものとは前述のごとく病氣であろう。これがため、個人としての療病費の多額や、罹病中の職業の放棄等による損害はもとより、特に患者が主人である場合、不幸の結果は遺族の生活難は免れ得ないところである。終戦後犯罪激増の大半は、これらの原因も大いにある。勿論そもそも原因が戦争のためもあるが、戦争の被害は一時的で、病氣のほうは永久的であるにみて最も深刻性がある。

次に戦争の恐怖も如何に大きな悩みであるかは、今現に世界人類がなめつつある事実によつても明らかである。というのは米ソ間の深刻な摩擦で、戦争が何時勃発するか分からない状態にまで切迫している事である。しかも原子爆弾という空前な恐るべき武器が現れた今日としては、もし第三次戦争が始まったとしたら、人類の破滅は必至

であると言ふ学者があるくらいだから想像に難からずで、今日人類にとってこれ程の恐怖はあまるまい。

以上の三大恐怖の解決こそ、人類に与えられた一大課題である。実に今日までの人類はあまりにも苦悩の絶え間ない世界であった。この世に確かに神がありしたら、神の大愛はこのような世界をそう長く許容し給うはずはない。必ずやこのような苦悩の時代は打ち切りとなつて、善美なる地上天国が生まれなければならないはずである。何よりもこのことを絶対確信している我等は、不動の信念をもつて邁進しつつあるのである。キリストの、天国は近づけりと予言された意味も、この事でなくて何であろう。

以上の意味によつて、右の三大恐怖の解決こそ、宗教の真の使命である事を痛感するのである。

### 浄霊体験記

- 不安から解放され 喜びと感謝の人生…
- 頭痛が良くなり 薬も不要になる…
- 毒素が排泄され ますます健康に…
- 治りの早さに 医者も驚く…

浄霊によって真の健康体となり、運命が向上し、幸せになられた方々の体験でございます。

ゼンソクの発作

不安から解放され  
喜びと感謝の人生…

嘉麻支部  
野見山秀樹 (71)



私は小学三年生の頃にアデノイドの手術を受けたことがあります、その後はこれといって病気で困ったことはありませんでした。しかし、新健康協会の会員であった叔母からは「浄霊という健康法があるよ…」と聞いていました。

そのこともあって、昭和五十八年の三月、私が三十二歳の時に初めて香椎支部に行き、浄霊を受けました。

すると、肩凝りや腰のたるさで体が出たのですが、数日後から鼻水が大変楽になりました。最初の頃は半信半疑でしたが、支部で浄霊を受けるう

ちに、体内の毒素が鼻水として排泄され、そのおかげで体が楽になっていくということが体験出来、これは有難いことだと痛感しました。そのため、その年の六月十九日に入会しました。

私は幼い頃ゼンソクがひどく、治療をしたこともありません。

その後は、落ち着いていてゼンソクの発作が出ることはなかったのですが、再びゼンソクの発作が出るようになりました。この時は既に浄霊を知っており、ゼンソクも毒素排泄のための浄化作用であると信じていましたので、発作が出る度に浄霊を受けました。時には出張して頂いて浄霊を受けることもありました。

おかげ様で、浄霊を受けると必ずタンがたくさん出て楽になりますので、心から感謝せずにはおれません。浄霊の素晴らしさをはっきりと自分の体で体験させていただきました。呼吸困難が楽になるので、その有難さは言葉では表現出来ません。

また、仕事の関係で一カ月間、茨城県の方に出張することもありました。普通でしたら、一カ月に一回はゼンソクの発作が出ていましたので、出張先でも発作が出てしまうだろう…と思いついて、明主様をお願いしてから出張いたしますと、発作が出ず、連日のハードスケジュールをこなすことが出来ました。これもひとえに明主様のおかげと、心より感謝申し上げます。

浄霊に御縁を頂く前までは、発熱や痛みがあると、すぐにひどい病気ではないか…と考えておりましたが、浄霊を受けると分かってからは、病気が浄化作用であると分かり、不安が喜びと感謝と希望に変わりました。

この浄霊を一人でも多くの方に伝えたいと思っております。

(福岡県嘉麻市)

痛みから救われる

頭痛が良くなり  
薬も不要になる…

ネパール・カトマンズ支部  
バティカ・ラナ (36)



私が二十一歳の時のことです。

頭の右側半分がひどく痛み、徐々に吐き気やめまいも出てくるようになりました。病院に行き薬も飲んでいましたが、一時的にしか治まらず、薬がきれるとまた痛み出すという状態を繰り返していました。そのため薬を手放すことが出来ませんでした。どうにかして頭痛を治したいとずっと悩んでいました。

そんな私の姿を見た知り合いの方から「浄霊という方法があるから試してみたら？」と言われ、痛みが治まるのであれば…という思いで、カトマンズ支部に行くことにしました。

初めはよく分からなかったのですが、浄霊を受けると精神的に落ち着いていきました。それから半年間ほど浄霊を続けました。ある時、浄霊を受けた後にトイレへ行くと、虫のようなも

のが出ていることに気がきました。これは何だろうと思いつつも、それが出ることによって頭が徐々に楽になってきていると感じました。

するとその後も何回かそういうことがあり、その度に頭痛は治まっていきました。浄霊を受け始めて七カ月で良くなりました。本当に嬉しかったです。

また、浄霊を知った頃から、数カ月は薬を飲むこともあったのですが、徐々に薬を減らすことができ、最終的には薬も必要なくなりました。あんなに苦しかった頭痛が短期間で治り、吐き気や目まいもなくなり、明主様に感謝申し上げます。

不安だった黒いアザ  
浄霊で消える

これは二〇一八年、私が三十二歳の時のことです、突然胸の辺りに黒いアザのようなものが出来ました。これは皮膚病だろうか…ガンのようなものだったらどうしようと思われ不安になりました。病院に行こうかとも考えましたが、あれだけ苦しかった頭痛が浄霊で良くなっていったので、今回も浄霊を受けようと思いい、毎日支部へ行きました。

おかげ様で痛み等はなく、五、六カ月間続けて浄霊を受けている内に、アザが消えていきました。

最初は不安だったのですが、徐々にアザが薄くなり、最終的にこの短期間でアザが良くなったのです！

浄霊を受けてよかったですと心から嬉しくなりました。

一人でも多くの方が浄霊を頂いて元気になれるよう、伝えていきたいと思えます。

(ネパール・カトマンズ)

浄化作用

人間には体内の毒素 (= 汚物) を排除して健康を促進しようとする働きがあります。これを称して自然良能力と言います。

例えばカゼの場合、体内にあってはならない毒素を排泄するために熱や痛みが出ます。そして、その結果ハナやタンなどが出て体の中が掃除され、清浄化されます。

その毒素排除の過程を「浄化作用」と言います。ですから浄化作用は、体を健康にする大切な清掃作用でもあるのです。



乾癬

毒素が排泄され  
ますます健康に：



佐賀支部  
川原邦彦(79)

私は、二〇一六年十二月より乾癬(慢性的な皮膚の病気)のような状態になりました。両足のすねからふくらはぎに赤い発疹が始め、飛び火のようになり、膿が出て乾燥し、カサブタが出来ていました。シッシンは、両腕、両太もも、背中へと徐々に広がり、各所に膿をもつようになつていきました。だんだんと痒みを我慢することが出来ず、一心不乱に掻いてしまうこともありました。その後はヒリヒリとした痛みやズキーンとした痛みが伴いました。それからというものの脚に段々魚のうろこのようなカサブタが重なり、痛みと痒みで眠れない日々が続きました。また、寒気がひどく、暖房を入れた部屋の中でもジャンパーが離せないほどでした。足はパンパンに腫れ、触るとその部分がとても熱く、普通には歩けない状態でした。私は、協会にご縁を頂いて六十年近

くになります。浄霊を受けてきて、これまで数々の御守護を頂いてきましたので、今回も体内の毒素を出すための浄化作用と思い、明主様にしっかりとお願いをしました。

高熱が出て痛みや痒みを我慢するのは耐えにくく、夜中に体が温まると痒みがさらに増して、起き上がった後は掻きむしり、何度もそれを夜中に繰り返してしまいましたので、まともに睡眠を取ることも出来ませんでした。また皮膚の色は赤紫から黒紫へと変わり、一日に四〜五回もガーゼを取り替えるほど膿がたくさん出ました。

その後も浄霊を続けて受けており、二〇一七年の一月に入ってから、少し眠れるようになりました。そして、張っていた肩や首、背中はずいぶん楽になつていき、激しい苦痛にもかかわらず、食欲もあつたので体力も消耗しませんでした。痒みも少しずつ治まってきました。カサブタがどんどん剥がれるようになると、その下には綺麗な皮膚が出来ていました。眠れる時間も増え、痛みも痒みも以前に比べてずいぶん楽になり、張っていた足の腫れも良くなり、とても綺麗になりました。

三月には正座が出来るようになり、孫の後を追いかけるほど動ける自分の姿に感動致しました。浄化は、体の清掃作用で有難いことだと解つていながらも、何度なくじけそうになりました。しかし、日々命を頂ける：という神様への感謝を忘れず、今日も頑張ろう！と思えたことで、今回の浄化を乗り越えることが出来ました。明主様へ感謝の気持ち伝えたく、このおかげ話を書かせて頂きました。誠に有難うございました。

(佐賀県神埼市)

アキレス腱断裂

治りの早さに  
医者も驚く：



飯塚支部  
林トシエ(68)

私がアキレス腱断裂になったのは、町内の地区対抗バレーボールに参加した平成三年九月八日のことでした。プレー中、ボールをレシーブしようと右足を前に出した途端、後ろの左足の筋をビリビリと引き裂かれたような感覚になりました。すると、誰かに思い切り蹴られたような痛みが走り、私はコートに座り込み、動けなくなりました。

幸い弟夫婦がその場に居合わせたので、自宅まで送ってもらいました。勤務中だった夫はすぐに帰宅してくれたので、一緒に飯塚支部まで行き、浄霊を受けました。その後病院に行き診断を受けると、医師は「アキレス腱が断裂しているので、すぐに手術を受けるように」と勧めました。しかし、私は手術をしたくなかったので、診断書だけをもらい

ました。この時、医師から「こんな激しい断裂では、半年後に腱が繋がったとしても歩くことが出来ないばかりか、立てなくなるかもしれない」と言われました。

しかし、私は昭和五十年頃から四十七年以上浄霊を受け、様々なおかげもいただいておりますので、アキレス腱もきつと浄霊で良くなると思い、その後も支部に戻って浄霊を受けました。その夜は不思議と痛みもなくなり、いつもと変わりなく眠れました。翌々日から毎日支部で、また夫からも浄霊を受けました。おかげ様でこれといった痛みもなく、十九日目には車を運転して支部に行けるようになり、一カ月後には松葉杖を外し、少しずつ歩けるようになりました。

再び病院で診断を受けたところ、医師は「腱が繋がっているので無理をしないように」と言い、不思議そうな顔をしていました。医師が「歩くことが出来ないばかりか、立てなくなるかも」と言っていた半年後には再びバレーコートに戻り、軽いレシーブが出来るようになっていました。

動悸も治りホク口も取れる

そればかりか、私が十二歳の時に盲腸炎の手術をしてから、時々手や足に冷や汗が出たり、急に動悸がしたり、呼吸が乱れる苦しさにも襲われることがありましたが、日々浄霊を受けていたことで、これも良くなりました。

また、平成十五年、バレーボールの練習中にネット際でジャンプした時、顔がネットに触れ、鼻血が出たような感覚がしました。ヌルヌルとするので鏡を見たところ、鼻血ではなく、左の

鼻の横にあった黒いホク口が取れていました。すぐに浄霊を受けたので出血することもなく、痛みもありませんでした。

浄霊の素晴らしさ  
多くの人に伝えたい

私は、これらの出来事を通じ、自分の体を通して浄霊の素晴らしさが分かり、浄霊の御力を確信しました。また私の快復を見守っていた家族も強い感動を覚えたようでした。この体験を生かし、私はより一層多くの人に浄霊の素晴らしさ、その力の偉大さを伝え、人々が病苦の悩みから一日も早く救われますよう念じております。

(福岡県田川郡)

浄 霊

浄霊は、大自然のエネルギーであり、病気やあらゆる問題で苦しんでいる人、悩んでいる人を救う方法です。浄霊によって魂は清浄化され、肉体が健康になっていきます。まずは試されてみてはいかがでしょうか。

# 自然農法

明主様の御教え

## 無肥料栽培

私は今無肥料栽培に就き解説するにあたって先づ根本理論から説いてみるが、抑々土とは何ぞやといふ事である。言ふ迄もなく人間生命を保持すべき最重要なる五穀野菜を生育すべく、造物主が造られたものに違いない。従つて土そのものの本質は神秘幽玄なるものであつて、現在までの唯物科学によるも到底窺知し得ない事は論をまたない感である。然るに今日迄の農業は不知不識邪道に陥ちいりたる結果土の力を蔑視し、一切の作物をより良く生育するには糞尿又は化学肥料等の人為的肥料に依らねばならぬと思ひ、今日に到つたのである。

然るに以上の如き結果は、土壌の本質は漸次退化変質し、土壌本来の生育力は衰耗するに拘わらず、それに気が付かない為、農作不良の原因は肥料不足に因ると錯覚し益々肥料を施すから土壌の力は愈々鈍化しそれを補わんとして肥料をより施す結果、今日の如く日本の國土は瘦地化し、農耕者の口を揃えて嘆ずる処である。

自然農法とは自然を尊び、愛情をかけて育てること、自然力を生かす農法です。

### 自然農法体験談



松山支部 中田伸二 (60)

私が、農業を始めたのは36歳の時です。それまで農業をしていた義理の母が亡くなり、その畑で農業をしてみたいと思つたことがきっかけでした。当時、サラリーマンだった私は、週1程度畑に行き、農業のノウハウを教わり、有機栽培で野菜を育てていました。

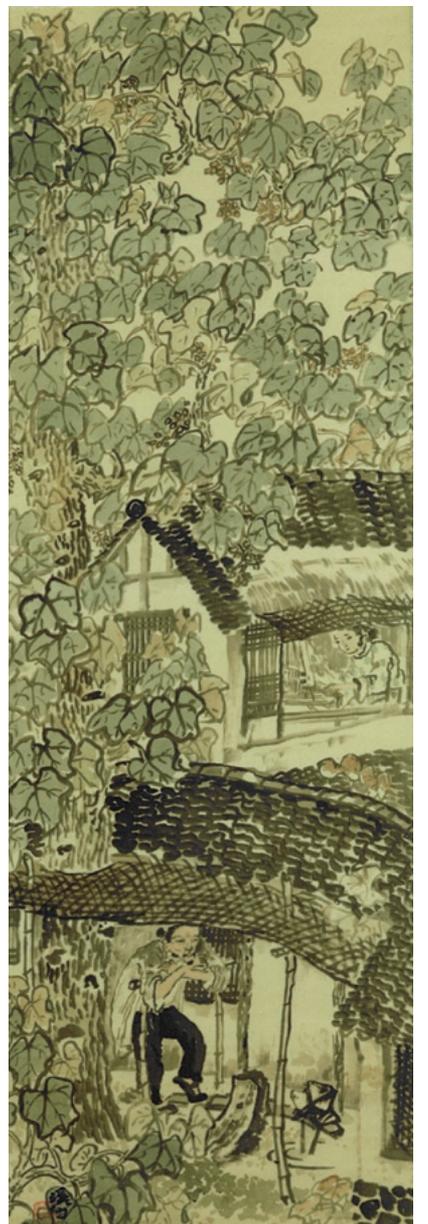
それから2年後の春、私は心身共に疲れきつてしまい、仕事にも支障をきたすようになりました。そんな中、心の安らぎを覚えたのが農業でした。一日中、畑で野菜の世話や草取りをして汗をかくと、不思議と充実感がありました。そこで、農業に専念したいと思つた私は仕事を辞め、専業農家となりました。

農業を続けていく内に、明主様の仰る自然農法の御教えに触れたり、実際に自然農法を実行している方の話を聞いたりして、私も自然農法で作物を育ててみたいと強く思うようになり、実践するようになりました。自然農法は「土の偉力を発揮させること」が大切と聞いた私は、思い切つて堆肥を入れずに栽培を始めました。現在で15年ほど経ちますが、作物は順調に育ち、収量も上がっています。また、なす、小豆、大豆、レタス等様々な野菜を育てていますが、どの野菜も自家採種を行い育てることが出来ています。

これからも感謝の気持ちを忘れずに自然農法を続けて行きたいと思つています。

## 美の世界

### 「桐蔭夏日図」 富田溪仙



画面いっぱいには生い茂る桐の葉は、一つとして同じ形がありません。樹皮の模様も、そして家屋の屋根や窓の棧までも躍動していて、夏の気温と湿度まで伝えるような生命感に満ちています。屋内では機織りする女性が、軒先では足踏みで作業をしている男性が、それぞれ優しい表情で仕事に取り組んでいて少しユーモラスな雰囲気さえあります。

この作品は、大正から昭和のはじめにかけて活躍した日本画家、富田溪仙によるものです。溪仙は明治十二年（一八七九）、博多の黒田藩御用達だった素麺屋を営む家に生まれました。子ども頃から狩野派を学び、十八歳の時家を出て京都で都路華香に師事します。また、溪仙の祖父と親交のあつた博多・聖福寺の禅僧画家の仙屋や、富岡鉄斎にも大きな影響を受けたといわれています。さらに各地を旅して研鑽を積み、俳人の河東碧梧桐らと幅広い交遊を持つて和漢、東西のさまざまな思想に触れました。そんな中、本作にもみられるような、溪仙独自の超俗的で自由闊達な画境が切り開かれていったのです。

大正元年（一九一〇）に第六回文展で水墨画の《鵜船》が入選すると、横山大観にこれを認めら

れ、再興した日本美術院へ出品するようになります。のちには同人となり、院展を主たる発表の場として活躍。《祇園夜桜》や《御室の桜》などの代表作を残しました。

このほか、駐日フランス大使で詩人のポール・クロードルとの交流も知られており、二人は詩画集も合作しています。こうして絵画以外のジャンルの人々とも親交を深め、自らの創作の糧としていった溪仙。因習を打破するその姿勢は、京都画壇において一際異彩を放つ存在だったとされていきますが、洋画と日本画のはざままで葛藤する時代にも迷わず超然と自分の芸術に邁進していたからのように思えてなりません。

昭和十年（一九三五）、帝国美術院会員となりますが、翌年改組の処置に反意を示し辞任します。わずかその一カ月後、五十六歳で急逝し、惜しまれつつその生涯を終えたのでした。

解説 松田愛子

### 清明会館 「伝承の趣」前期展

期間…6月1日(水)〜12月13日(火)

※清明会館お問い合わせ ☎(092)661-1535

健康新聞についてのお問い合わせは (092)661-1531まで